



スポーツは、
関西医大と医学で、
もっと進化する。

■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)
https://hp.kmu.ac.jp/
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1
地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)
TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861



■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)
https://hp.kmu.ac.jp/takii/
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15
地域医療連携部 病診連携課
TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488



■ 関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321 (代)
https://hp.kmu.ac.jp/kori/
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45
地域医療連携部 病診連携係
TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988



■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)
https://hp.kmu.ac.jp/kuzuha/
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1
地域医療連携課
TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022



■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)
https://hp.kmu.ac.jp/temmabashi/
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)
TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



■ くずは駅中健康・健診センター

TEL.072-809-2005 (代)
https://hp.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町14-1 (京阪くずは駅ビル 2階)
TEL.072-809-2005



INDEX

巻頭 特集 スポーツに医学のチカラを

■ 附属病院

新任教授に聞く 尾崎 吉郎 05
新任教授に聞く 井口 直也 06
新任教授に聞く 梅垣 岳志 07

■ 香里病院

病院長に聞く 岡崎 和一 10
センター長に聞く 綿谷 正弘 11

■ 天満橋総合クリニック

院長に聞く 大宮 美香 15

■ 総合医療センター

新任教授に聞く 本津 茂人 08
新任教授に聞く 木川 雄一郎 09

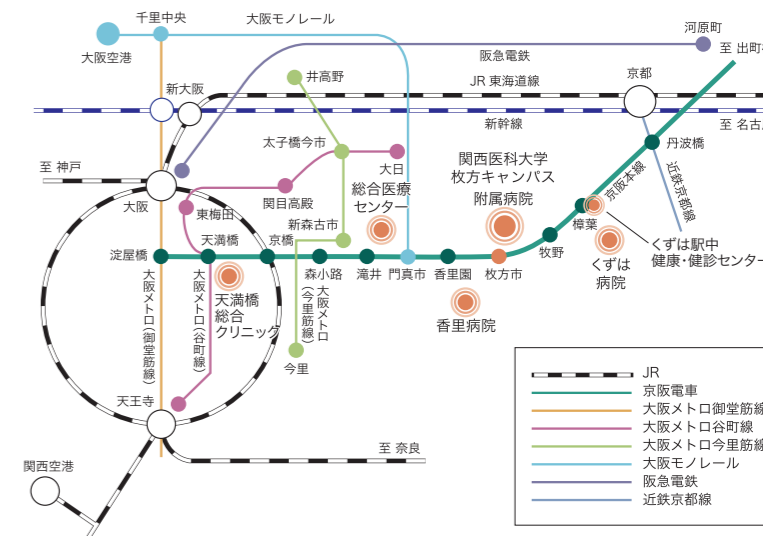
■ くずは病院

内視鏡部 部長に聞く 浦上 富生 12
新任医師に聞く 細田 晃暉 13
入院前支援について 14

・看護師 大瀬 真梨子 ・看護師 田中 梨沙
・看護師 西澤 佳代 ・看護師 上田 恵
・メディカルソーシャルワーカー 松岡 知佳

■ くずは駅中健康・健診センター

センター長に聞く 浦上 昌也 16





スポーツに 医学のチカラを

スポーツ医学センター特集

■スポーツ医学センター 所属医師のご紹介

氏名	専門領域	対象疾患	得意な術式
山門 浩太郎 教授	肩	変形性肩関節症、 肩腱板断裂など	人工肩関節置換術、 鏡視下腱板修復術など
永元 英明 准教授	スポーツ、足、肩	投球障害(肩・肘)、反復性肩関節脱臼、 足関節不安定症など	鏡視下バンカート修復術、 鏡視下下足関節外側靭帯再建術など
勝谷 洋文 講師	スポーツ、足、膝	前十字靭帯損傷、半月板損傷、 アキレス腱断裂など	鏡視下前十字靭帯再建術、 鏡視下半月板縫合術など
鈴木 国大 助教	スポーツ、肩、肘	投球障害(肩・肘)、肩腱板断裂、 変形性肩関節症など	鏡視下腱板修復術、 人工肩関節置換術など

■附属病院 スポーツ医学センター外来診療日程

曜日	午前		午後	
	月曜	勝谷 (スポーツ・膝・足)	山門 (肩)	永元 (スポーツ・足・肩)
火曜	※第1・3週午後のみ		永元 (スポーツ・足・肩)	勝谷 (スポーツ・膝・足)
水曜	山門 (肩)	鈴木 (スポーツ・肩・肘)	永元 (スポーツ・足・肩)	勝谷 (スポーツ・膝・足)

■くずは病院 スポーツ医学センター外来診療日程

曜日	午後(～16:00)	夜診(17:30～19:30)
	月曜	山門 (肩)
火曜	※第1・3週午後のみ	勝谷 (スポーツ・膝・足) ※第2・4週のみ

■スポーツとくらしと医療

歩く、走る、投げる、振り回す、同じ姿勢を維持する e.t.c.。日常生活で意識することの少ない人間の動作も、プロアスリートクラスになれば話は別です。微妙な違和感、普段との違いが選手生命を脅かすリスクになりかねない。アスリートたちはそんなシビアな世界に身を置きながら勝利を目指しているのです。だからこそ関西医大はそこに医学の力を加えることで、彼らアスリートの進化を支えたいと考え、「肩」「肘」「膝」「足」のスペシャリストを附属病院に招聘し、「スポーツ医学センター」を立ち上げました。

所属スタッフはプロ野球やJリーグのチームドクター経験を持っていたり、東京オリンピックのナショナルチームドクター、オフィシャル会場ドクター経験があったり、自転車競技選手権ロードレース大会の帯同ドクター、全日本エアロビック選手権大会ドクター、日本代表ハレーボールメデイカルチェック、自転車トラック競技ナショナルチーム専属理学療法士など、各分野のプロフェッショナル経験を豊富に有しています。

実際の診療では、整形外科や総合リハビリテーションセンター、健康科学センターと密接に連携し、外来で治療し手術しリハビリし早期の競技復帰へ高度な医学的知見や実績に裏打ちされた的確な医療を提供。部位に関係なく、スポーツ愛好家からプロレベルの選手まで種目や競技レベルを問わず、スポーツに関係する障害や外傷の治療を専門としています。身体機能評価に基づいた的確な診断のもと、選手や患者様の一人ひとりの要望に応じた治療、障害予防プログラムの提供を目指していますので、スポーツに関連する障害・外傷を負った患者さんがいっしょに、お気軽にご紹介ください。

スポーツ医学センター 診療イメージ



インタビュー特集

KEY-PERSONに聞く。

関西医大グループの各附属医療機関で診療の最前線に立つ医療従事者から、新任主任教授・診療部長・診療科長を中心にKEY-PERSON=カギを握る人物をピックアップ。現在取り組んでいることや得意な治療・領域、これからの展望など、語っていただきました。

■ 附属病院

リウマチ・膠原病科 診療教授
麻酔科 診療教授
総合集中治療部 診療教授

尾崎 吉郎
井口 直也
梅垣 岳志

■ 総合医療センター

呼吸器腫瘍内科 診療教授
乳腺外科 診療教授

本津 茂人
木川 雄一郎

■ 香里病院

病院長 予防医療センター長
乳腺センター センター長

岡崎 和一
綿谷 正弘

■ くずは病院

内科（消化器内科）助教
内科（消化器内科）

浦上 富生
細田 晃暉

看護師 大潮 真梨子 看護師 田中 梨沙 看護師 西澤 佳代
看護師 上田 恵 メディカルソーシャルワーカー 松岡 知佳

■ 天満橋総合クリニック

院長 大宮 美香

■ くずは駅中 健康・健診センター

センター長 浦上 昌也



運動・スポーツと 総合医療センター

プロスポーツに限らず、普段の暮らしや軽い運動、日常動作を支えるリハビリテーション科の3つの特徴をご紹介します。

1

超急性期からのリハビリテーション 早期離床リハビリテーションチーム

早期離床リハビリテーション(リハビリ)チームはリハビリテーション科医師、理学療法士、救命科医師、救急部門看護師で構成されています。リハビリテーション科所属の理学療法士が、救命部門において日々行われている回診に参加し、救命科医師の指示の元で超急性期からのリハビリを開始。さらに、救命部門看護師と連携して継続的に超急性期リハビリを提供しています。また、当院ではこのチームに言語聴覚士が参加しており、超急性期から嚥下障害に対応しているのが特徴です。

2

リハビリ機器の充実したデイケア

当院リハビリテーションセンターには通所リハビリデイケアセンター滝井が併設され、介護保険を適用したリハビリも提供可能です。超急性期から退院



3

その他の力を入れている取り組み

総合医療センターリハビリテーション科では、脳血管障害や脊髄障害で起こる痙縮に対するボツリヌス療法や四肢の切断に対する義肢(義手・義足)や変形に対する装具療法に力を入れています。これらは適切な症状に対して適切な時期に行えば、日常生活活動が劇的に向上します。また、デイケアでは運動だけでなく、栄養にも介入する臨床研究(魚のタンパク質を摂取)を行ない、一定の効果を認めています。

後の生活期に至るまで、シームレスにリハビリを提供しています。また、機器の充実が当センターの大きな特徴。例えばミラーと映像でリハビリをナビゲーションする「デジタルミラー」や、電気刺激を併用しながら上肢(肩・肘)の自動運動・反復訓練をサポートする上肢リハビリ装置「CoCoRoie AR2」、画面に写った問題を解きながら自転車漕ぎ、運動と脳トレを同時に行う「Cogni Bike」(コグニバイク)など、様々なリハビリ機器を揃えています。

私たち関西医科大学は、プロ・アマチュアレベルを問わず競技・日常の“スポーツ”を応援しています。

- ・肩関節(腱板断裂、変形性肩関節症、反復性肩関節脱臼など)
- ・膝関節(前十字靭帯損傷、半月板損傷、膝蓋腱障害など)
- ・足関節(捻挫後遺症、距骨骨軟骨損傷、変形性足関節症など)
- ・アキレス腱断裂
- ・スポーツ選手の肩・肘(投球障害肩・肘、肩関節唇損傷、上腕骨内側上顆骨化障害など)
- ・スポーツ選手の膝(ジャンパー膝、鷲足炎、腸脛靭帯炎など)
- ・スポーツ選手の足(Jones骨折、アキレス腱症、足底腱膜炎など)
- ・スポーツ活動中の腰(腰椎分離症、筋筋膜性腰痛症、椎間板性腰痛など)
- ・スポーツ活動中の足首の捻挫や痛み(足関節不安定症、前方・後方インピンジメント症候群、腓骨筋腱脱臼など)

当てはまる症状、患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもお気軽にご紹介ください



New Professor Interview

麻酔科
新任教授に聞く

関西医科大学附属病院
麻酔科 診療教授

井口 直也

Iguchi Naoya

これまで大学病院や基幹病院にて、麻酔周術期管理・集中治療の現場に身を置いてまいりました。特に心臓手術や臓器移植といった、極めて緻密な全身管理が求められる重症例を多く経験してきた自負があります。今後はこの経験を活かし、当院が担う高次医療の質をさらに高め、地域の皆さまに貢献していきたいと考えております。

私が麻酔科医を志した原点は集中治療への関心です。自力での呼吸や栄養摂取が困難な患者さんに対して、特定の臓器のみならず全身を俯瞰して介入し、回復へ導くプロセスに強いやりがいを感じました。以来、信条とするのは「安全を最優先にした全身管理」です。質の高い麻酔管理の実践は、患者さんの予後を守るだけでなく、医療者が安心して診療に専念できる環境づくりに直結すると考えております。

また臨床と並行し、約20年にわたって注力してきたのが腎臓研究です。集中治療の現場では、メインの疾患が治癒しても、術後に発症した腎障害で命を落とす、あるいはQOLが著しく低下する方を多く目の当たりにしてきました。腎機能の悪化は使用薬剤を制限し、治療の選択肢を狭めます。さらに退院後に透析が必要となれば地域医療側の負担も増大しかねません。「見えにくい臓器」である腎臓の酸素需給や循環動態を把握し、守り抜くことの重要性を実感した私は、基礎研究と臨床研究の

Profile

- 1999年3月 鳥取大学医学部医学科 卒業
- 1999年4月 大阪大学医学部附属病院 麻酔科 研修医
- 2000年7月 市立堺病院 麻酔科 研修医
- 2001年6月 大阪府立母子保健総合医療センター 麻酔科 レジデント
- 2002年6月 大阪大学医学部附属病院 集中治療部 医員・助手
- 2005年7月 国立循環器病センター 集中治療部門 厚生労働技官(常勤医師)
- 2007年4月 関西労災病院 麻酔科 医長
- 2009年4月 大阪大学大学院 医学系研究科 先進心血管治療学寄附講座 助教
- 2010年4月 大阪大学医学部附属病院 助教 集中治療部・麻酔科
- 2015年10月 オーストラリアメルボルン大学フローリー研究所 客員研究員、オーストラリア オースティン病院 名誉研究員
- 2018年10月 大阪大学大学院 医学系研究科 麻酔科・集中治療部 助教
- 2020年4月 大阪大学大学院 医学系研究科 麻酔科 特任講師
- 2025年10月 関西医科大学 医学部麻酔科学講座 診療教授



Speciality Service Interview

リウマチ・膠原病科
新任教授に聞く

関西医科大学附属病院
リウマチ・膠原病科 診療教授

尾崎 吉郎

Ozaki Yoshio

昨年11月にリウマチ・膠原病科の担当診療教授を拝命しました。当院の開院以来、一貫してこの地で診療に携わり、地域の先生方と共に歩んでこられたことは私にとって大きな喜びです。これまで、「北河内リウマチネットワーク」の立ち上げなどを通じ、診療の啓発と連携体制の構築に努めてまいりましたが、就任にあたり多くの先生からより一層の連携強化を期待する温かいお声をいただき、改めて背筋が伸びる思いです。

北河内医療圏は、珍しい特徴を持つ地域です。それは、関節リウマチなどのコモディティーズに対し、高い専門性を備えたクリニックが数多く存在する一方、より高度な治療を引き受けられる基幹病院に限られる点です。先生方が日々の診療でバックアップ体制に苦慮される場面も少なくないとお見受けしており、当科の使命はまさに、「先生方の「力」を支える場であることだと自負しております。コントロール困難な症例や合併症を伴う難治例など、多職種・他科連携によるチーム医療で最善の治療を提供いたしますので、お困りの際はぜひお声がけください。

私が診療において肝心だと考えるのは、患者さんとの「適切な距離感」です。リウマチ・膠原病は生涯にわたり管理を要する疾患ですが、大学病院への過度な依存は避けるべきだと考えます。あくまで地域の先生方をメインドクターと位置付け、当科は専門的介入が必要なときに全

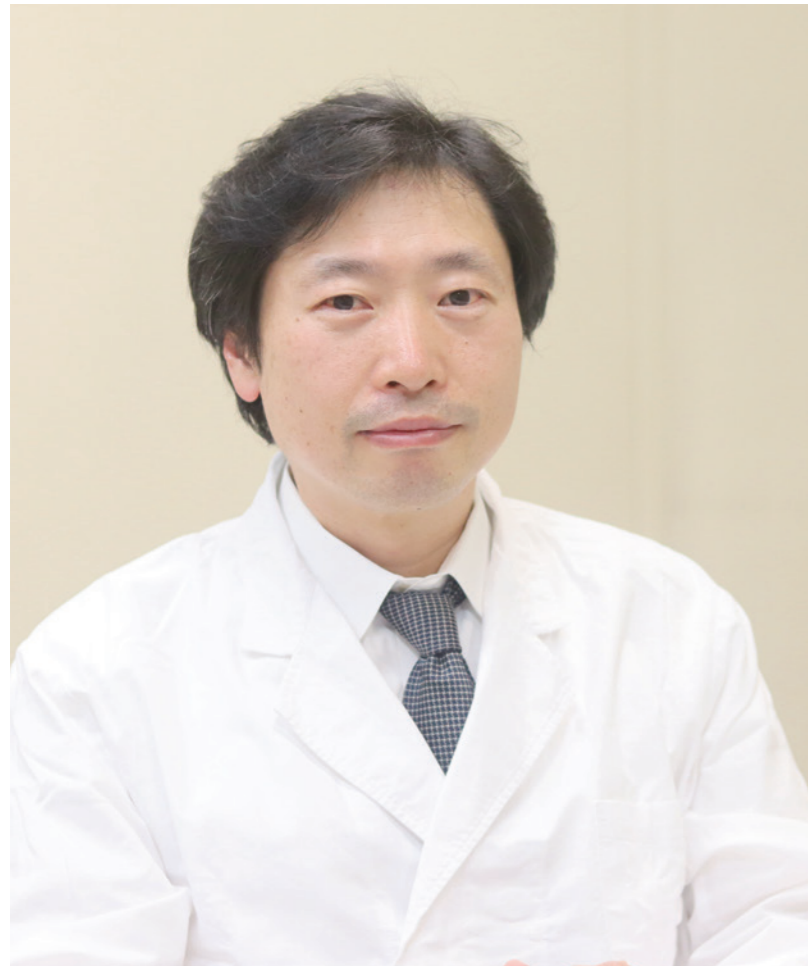
Profile

- 1993年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2000年10月 関西医科大学 内科学第一講座 助手
- 2005年11月 関西医科大学 内科学第一講座 講師
- 2006年1月 関西医科大学附属枚方病院(現・附属病院)リウマチ・膠原病科 科長
- 2008年11月 関西医科大学附属枚方病院 病院准教授
- 2014年11月 関西医科大学 内科学第一講座 准教授
- 2017年10月 関西医科大学附属病院 病院教授
- 2021年4月 関西医科大学 准講会 会長
- 2025年11月 関西医科大学 内科学第一講座
リウマチ・膠原病科(附属病院)担当診療教授

緊密な病診連携を軸に
地域のリウマチ・膠原病診療をさらに豊かに

力を尽くす。この役割分担を明確にし、病状安定時には速やかに逆紹介を行うことで、地域全体でより多くの患者さんを支える安定した循環を創出したいと願っております。

近年、先進諸国を中心に自己免疫疾患は増加傾向にあり、対応できる専門医の育成は喫緊の課題です。私はこの度の就任を機に、地域連携のさらなる強化を図るとともに、次世代を担う若手医師へこの分野の醍醐味を伝え、診療体制を拡充していくことも重要な職責だと認識しております。「コロナ禍で不定期となっていた勉強会も順次再開し、先生方との対話を重ねていきたいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



New Professor Interview

呼吸器腫瘍内科
新任教授に聞く

関西医科大学総合医療センター
呼吸器腫瘍内科 診療教授

本津 茂人

Hontsu Shigeto

昨年、肺がんをはじめとする胸部悪性腫瘍を専門的に担う「呼吸器腫瘍内科」が当センターに創設され、その診療教授として着任いたしました。私自身は枚方市の出身であり、なじみ深い北河内エリアの地域医療に改めて貢献できる機会を得たことに身の引き締まる思いです。

これまで長年、大学病院等の高度医療機関において呼吸器疾患全般、とりわけ肺がん診療の第一線で研鑽を積んでまいりました。近年の肺がん治療は、ゲノム医療や免疫療法の進歩により劇的な変化を遂げています。かつてIV期の進行肺がん患者さんの生命予後は不良とされてきましたが、遺伝子治療と免疫チェックポイント阻害剤、抗がん剤を組み合わせたことで長期で生存できる症例が確実に増加してきました。これまで得た知見を最大限に發揮し、地域の先生方から「最善の選択肢」として患者さんをお任せいただける診療体制を構築することが、自らの使命だと考えております。

当科では、呼吸器外科や放射線科、病理部との連携を基盤とし、一人ひとりに最適な個別化医療を提供しています。直近の目標としては、まずガイドラインに準拠した診療体制を確固たるものにする。呼吸器腫瘍の確定診断を低侵襲で実施し、がんの遺伝子検査やPD-1検査、病期診断を含めた画像診断をしっかりと行い、適切な治療を患者さんに提供する一連の流れを確立します。そしてその先には、次世代

専門性を結集した個別化医療を確立し
地域に根差した肺がん診療を

を担う若手医師の育成に注力し、当院単独での治験や臨床試験の実施など、最新の治療をよりの確に届けられる質の高い組織へと発展させていく所存です。

一方で、大学病院としての専門性を堅持しつつも、地域の先生方との顔の見える関係性を何より大切にしたいと考えております。専門的な診療は当科が担い、日常的な健康管理や併存症のケアは地域の先生方にお預けする。密な病診連携こそが患者様のQOLを支える基盤となります。胸部画像で何か異常があれば、ぜひお気軽にご相談いただけます。新設されたばかりの科ではありますが、これからの展開にぜひご期待ください。

Profile

- 1999年3月 奈良県立医科大学 卒業
- 1999年4月 奈良県立医科大学附属病院 第二内科 研修医
- 2002年4月 東京大学大学院 医学系研究科 特別研究生
- 2005年4月 星ヶ丘厚生年金病院(現・星ヶ丘医療センター)呼吸器科 医員
- 2007年4月 奈良県立医科大学 内科学第二講座 医員
- 2008年10月 奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学 特任助教
- 2010年4月 奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学 特任講師
- 2014年10月 奈良県立医科大学 内科学第二講座 学内講師
- 2016年7月 奈良県立医科大学 内科学第二講座 講師
- 2023年4月 奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座 准教授
- 2025年8月 関西医科大学総合医療センター 呼吸器腫瘍内科 診療教授



New Professor Interview

総合集中治療部
新任教授に聞く

関西医科大学附属病院
総合集中治療部 診療教授

梅垣 岳志

Umegaki Takeshi

専門性とチーム力が
強みのGICU

総合集中治療部(GICU)で診療に携わる梅垣と申します。GICUでは呼吸循環・代謝といった重要臓器に急性障害をきたした患者さんを年間約2,400例受け入れ、集中的かつ総合的な治療を行っています。当院がこれだけの症例数を受け入れられるのは、集中治療専門医、麻酔科医を中心にメディカルスタッフが一丸となり、チーム医療がうまく機能して

いるからにはかなりません。特に国内有数を誇る特定看護師の層の厚さは当部門の大きなアドバンテージであり、質の高い医療を提供するにどまらずタスクシフトなど新しい課題に取り組み柱となっています。また他病棟との協力体制も整っており、患者さんを取り巻く環境の良さも当部門の強みに繋がっています。

私は麻酔科医としてキャリアをスタートし、麻酔と集中治療、2つの領域で専門性を磨いてきました。現在は集中治療を軸に、主に重症患者さんの全身管理を担っています。集中治療に深く携わるようになったのは、当院が開院した当時、集中治療室の立ち上げに関わったことがきっかけでした。2017年からは副部長として部門全体の体制づくりにも注力しております。常に患者さんにとって何が最善かを考え、目の前のできることに全力で取り組み続けてきました。一方で診療を俯瞰する視点も重要だと考え、大学院では医療経済学を学びました。ビッグデータを用いた解析を通じ、集中治療を客観的に評価する経験は臨床研究に生きています。現在も敗血症や周術期管理をテーマに研究を続け、得られた知見を日常診療へ還元することを心がけています。

現在GICUでは病床数の増加を予定しており、さらなる体制強化を図っています。他の医療機関様で治療に難渋している患者さんについても広く受け入れておりますので、当部門がお役に立てることがあれば、どうぞ遠慮なくご相談ください。これからもより多くの患者さんに、手術時の麻酔も含め、集中治療においても質の高い診療を提供できるように精進してまいります。

総合集中治療部 GICU



Profile

- 2003年3月 関西医科大学医学部医学科 卒業
- 2003年5月 関西医科大学附属病院 麻酔科 研修医
- 2006年1月 関西医科大学 麻酔科学講座 助教
- 2007年4月 倉敷中央病院 麻酔科 シニアレジデント
- 2012年3月 京都大学大学院 医学研究科 医療経済学分野 博士課程修了
- 2017年4月 関西医科大学 麻酔科学講座 講師
- 2017年4月 関西医科大学附属病院 総合集中治療部 副部長
- 2022年4月 関西医科大学附属病院 病院准教授
- 2022年5月 関西医科大学 麻酔科学講座 准教授
- 2024年4月 関西医科大学附属病院 病院教授
- 2025年8月 関西医科大学 麻酔科学講座 総合集中治療部(附属病院)担当診療教授



Hospital Director Interview

病院長に聞く

関西医科大学香里病院
 病院長 予防医療センター長

岡崎 和一

Okazaki Kazuichi



日頃より多大なるご理解と協力を賜り厚く御礼申し上げます。当院はこれまで大学病院として高度な医療を提供することも、患者さんの退院後を支える介護福祉部門の充実に努めてまいりました。そして現在、新たな柱として注力しているのが、病を未然に防ぐ「予防医療」の領域です。予防から治療、そして介護福祉まで地域の皆さんの生涯を切れ目なく支えていく。それが地域密着を掲げる当院の責務であると考え、昨年「予防医療センター」を開設いたしました。

昨年9月に本格稼働を開始した予防医療センターでは、当院の既存の医療資源を最大限に活用した人間ドックを提供しております。専用の豪華な施設があるわけではありませんが、大学病院として培ってきた検査体制や専門医による質の高い診断をそのまま健診メニューとしてご提供しており、健康診断に必要な項目を網羅した標準コースをベースに各種オプション検査を組み合わせることで、一人ひとりにぴったりの健診をオーダーメイドしていただくことができます。

特徴は、受診者お一人ずつに専任のコンシェルジュが同行し、院内を移動しながら手厚いサポートでスムーズに受診していただける点です。また、病院併設型の人間ドックにおける最大の利点は、精密検査が必要となった際の迅速な連携にあります。健診データは電子カルテで共有されているため、受診者の方が改めて資料を揃える手間をかけることなく、速やかに専門外

当院ならではのシームレスな医療の実現へ
 昨年より人間ドックの提供を開始しました



来へ移行可能です。万が一の際も高度な医療をシームレスに提供でき、その安心の提供こそ私たちが地域医療において果たすべき役割だと考えております。

地域の先生方の大切な患者さんがいつまでも健やかでいられるよう、当センターが先生方の診療の一助となり、地域全体の健康維持に貢献できれば幸いです。現在は定期的にスタッフ会議を開き、受診者アンケートから運営の改善を重ねており、改装した特別室を静養の場としてご利用いただけるプレミアムプランなど新たなサービスも検討中です。これから意欲的にサービスを拡充してまいりますので、どうぞご注目ください。

予防医療センター 人間ドック

■標準コース 料金 46,000円(税込)

標準コースでは健康診断の基本となる項目を網羅。加えて、MRI・MRA検査(頭部)や腹部CT検査、頸動脈超音波検査といったオプション検査を追加することで、ご自分にマッチしたオーダーメイド健診を受診していただけます。

詳しくはこちら

香里病院 | 人間ドックのご案内

<https://hp.kmu.ac.jp/kori/outpatient/dock/>

Profile

- 1978年3月 京都大学医学部 卒業
- 1986年11月 医学博士(京都大学)
- 1988年4月 ニューヨーク医科大学 客員研究員
- 1989年4月 州立ニュージャージー医科大学 客員研究員
- 1995年5月 高知医科大学 助教授
- 1996年11月 京都大学大学院医学研究科・光学医療診療部 助教授
- 2003年4月 関西医科大学附属病院 内科学第三講座 主任教授
- 2003年4月 関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科学 診療部長
- 2010年4月 関西医科大学附属病院 副院長
- 2019年6月 関西医科大学附属病院 難病センター長
- 2020年4月 関西医科大学香里病院 病院長
- 2025年4月 関西医科大学香里病院 予防医療センター センター長(兼任)



New Professor Interview

乳腺外科
 新任教授に聞く

関西医科大学総合医療センター
 乳腺外科 診療教授

木川 雄一郎

Kikawa Yuichiro

乳がん診療は検診・診断から治療、フォローアップまで長期にわたる医療です。私はこれまで一般外科診療において手術療法や薬物療法、緩和ケア、そして臨床研究と幅広い領域に携わってまいりました。その中でつくづく感じるのが、治療成績のみならず、患者さんの生活そのものを見据えた支援が欠かせないということであり、それを実現するには一つの医療機関だけでなく、地域全体で支える体制が必要だと考えています。

2020年に枚方の附属病院へ着任して以来、また昨春に当院の乳腺外科診療部長を拝命してからも、日々の診療は地域の先生方のご支援の上に成り立っていると実感します。地域連携バスを活用し、状態が安定した患者さんは可能な限り逆紹介するよう心がけてきましたが、併存疾患の管理や長期フォローを担ってくださる先生方の存在なくして質の高い乳がん診療は成り立ちません。役割を分担しながら診療を続けることが患者さんの安心に繋がる。そのことを日々の診療で痛感しており、長年のご協力に心より感謝申し上げます。

一方で、大学病院として担うべき役割もあります。現在はQOLや患者報告アウトカム(PRO)に着目した臨床研究に取り組み、アプリを用いた症状の把握など新しい診療の形に挑戦しています。治療中・治療後の負担や生活への影響を可視化し、診療へ還元していくことが重要だと考えています。

乳がん診療のこれからを見据え
 地域の先生方とさらなる連携を

今後の目標は、患者さんに「この地域に住んで良かった」と感じていただける乳がん診療体制をつくることです。当科の強みである多職種連携のチーム医療をさらに磨き、高度な治療を安全に提供するとともに、治療前からサバイバーシップまで切れ目のない支援を実現していきたいと考えています。あわせて、定期治療やフォローアップを地域で継続しやすい体制づくり、病診連携のデジタル化推進にも取り組んでまいります。高度医療を担う大学病院であると同時に、地域の一人として先生方と顔を合わせ、相談し合える関係でありたい。そんな思いで、これからも地域の乳がん診療を皆さまと一緒に前進していきたいと願っております。

Profile

- 2000年3月 岡山大学医学部医学科 卒業
- 2000年6月 神戸市立医療センター中央市民病院 外科 研修医
- 2003年6月 神戸市立医療センター西市民病院 外科 後期研修医
- 2005年4月 神戸市立医療センター西市民病院 外科 医員
- 2012年4月 神戸市立医療センター中央市民病院 乳腺外科
- 2020年1月 関西医科大学附属病院 乳腺外科 助教
- 2023年4月 関西医科大学附属病院 乳腺外科 診療講師
- 2024年6月 関西医科大学 乳腺外科学 講師
- 2025年5月 関西医科大学総合医療センター 准教授、乳腺外科診療部長
- 2026年4月 関西医科大学総合医療センター 乳腺外科診療教授

消化器内視鏡の検査・治療体制が、より頼もしくなりました



Speciality Service Interview

内視鏡部 部長に聞く

関西医科大学くずは病院
内科(消化器内科) 助教

浦上 富生

Uragami Tomio

内視鏡部部長を務めております。浦上と申します。日頃は内科全般を担当しつつ、内視鏡部長としては検査・治療の質と環境を整え、地域の先生方に安心してご紹介いただける体制づくりに取り組んでいます。

当部ではこれまで、経験豊富な専門医の丁寧な挿入技術による「苦しくない内視鏡検査」を追究してまいりました。その上で、内視鏡部部長に就任以来、私が特に力を入れてきたのが患者さんの負担軽減、ならびにご紹介の労力の軽減です。

まず患者さんの負担軽減については、炭酸ガス送気装置を導入しました。炭酸ガスは従

患者さんの負担やご紹介の労力を減らし もっとお任せいただける内視鏡部へ

来の空気と異なり検査後に体内で吸収され、呼吸とともに出ていくので、検査後のお腹の張りが抑えられます。あわせて新たに保険収載された鎮静剤への切り替えも進め、安全性と快適性の両立を推進。苦痛をできる限り抑え、早期発見・早期治療に繋げるための施策を重ねています。続いて地域連携の面においては、開業医の先生方から直接、上部内視鏡検査(胃カメラ)をご予約いただけるシステムを、より簡便にご利用いただけるよう改善しました。このシステムをご活用いただければ、患者さんは外来受診を介さずに予約が確定し、紹介状をお持ちいただくだけで来院当

日に検査が可能です。また従来の経鼻内視鏡に加え、現在は鎮静剤を使用した経口内視鏡もお選びいただけます。検査後、治療が必要な場合は当院でフォロー可能です。患者さんにとっても通院の回数が少なく負担を抑えられますので、検査を必要とされる方がいらっしゃればぜひご利用いただけますと幸いです。

現在、内視鏡部は細田医師(次ページ)と2名体制をベースに運営しており、受け入れにはまだ余力があります。今後は件数の拡充、スタッフ教育を通じた医療の質の均一化を進め、より頼れる地域の医療資源となることが目標です。専門的な医療を分かりやすく、身近に。気軽にご相談いただける内視鏡部を目指して、これからも地域の先生方と連携を深めていきたいと考えております。

胃カメラ検査 直接予約

地域の医療機関の先生方からのお申し込みで、外来を通さず直接「上部内視鏡検査(胃カメラ)」をご予約いただけます。必要書類をFAXで送信していただくことでお申し込みが可能です。

■お申し込みのご案内はこちら

<https://hp.kmu.ac.jp/kuzuha/medical/document/>

■お問い合わせ先はこちら

関西医科大学くずは病院 地域医療連携部 TEL:072-809-0013



Profile

- 2012年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2012年4月 関西医科大学附属枚方病院 内科
- 2014年4月 関西医科大学附属病院 消化器内科
- 2016年4月 JCHO大和郡山病院 消化器内科
- 2018年4月 関西医科大学附属病院 消化器内科
- 2023年4月 関西医科大学くずは病院 消化器内科
- 2025年10月 関西医科大学くずは病院 内視鏡部 部長

ラジオ波を用いた乳がん治療

Speciality Service Interview

乳腺センター センター長に聞く

関西医科大学香里病院
乳腺センター センター長

綿谷 正弘

Watatani Masahiro



ラジオ波焼灼療法(RFA)

「切らない乳がん治療」を選択肢に啓発にも注力し、早期発見を増やしたい

乳がんを中心とした乳腺疾患の診断から治療、その後のケアまで一貫して担う乳腺センターの設立以来、センター長として多くの患者さんに接してきました。地域の先生方からご紹介いただいた患者さんも多数いらっしゃり、日頃の病診連携に改めてお礼申し上げます。当センターでは最新の検査機器を活用しながら、可能な限り低侵襲で患者さんに分かりやすく優しい医療を提供する姿勢を大切にしてきました。そうした中で、2025年9月よりラジオ波焼灼療法(RFA)の提供を開始しましたのでお知らせいたします。

ご存じの方も多いと思いますが、2023年に保険適用となったこの治療は「乳房を切らずにがんを治療できる方法」として注目されています。がんに細い電極を刺し、ラジオ波による熱で病変組織を熱凝固するため、大きな皮膚切開を伴わず身体的、整容的に患者さんの負担を軽減できる点で非常に優れています。適応は1.5cm以下で転移のない早期乳がんに限られますが、治療の選択肢が増えたことで当センターの診療はより厚みを増したと自負しています。

一方で、この治療が成り立つには「早期発見」が欠かせません。私が調べたデータでは、自己発見で受診された乳がんの平均サイズは約2.7cmであり、1.5cm以下はかなり早い段階と言えます。だからこそ重要なのが、定期的な健診と、日頃から乳房の変化に目を向ける「ブレ

スト・アウェアネス」の習慣です。女性の9人に1人が乳がん罹患するとされる時代ですが、早期に見つけ、適切な治療を行えば治癒が期待できる疾患です。そして意識の高い方は早期発見の確率が上がります。当院がピンクリボン活動の一貫として毎年実施する日曜乳がん検診では、昨年、受診された24名のうち1名に1cm弱の乳がんを発見し、RFAによる治療へ繋げることができました。今後は市民の皆様への啓発活動にもさらに力を注ぎ、診断から高度な治療までを担う拠点として、安心してご紹介いただける乳腺センターであり続けてまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

Profile

- 1978年3月 信州大学医学部 卒業
- 1978年4月 大阪大学第2外科 入局
- 1985年4月 米 National Cancer Institute Visiting Fellow
- 1989年7月 近畿大学第1外科 病院講師
- 2003年8月 近畿大学外科 准教授
- 2008年10月 近畿大学医学部 肺乳腺内分泌外科 教授
- 2011年7月 近畿大学奈良病院 乳腺内分泌外科 教授
- 2019年4月 医療法人医誠会病院 乳腺内分泌外科 部長
- 2021年4月 関西医科大学香里病院 理事長特命教授、乳腺センター センター長

消化器内視鏡の検査・治療体制が、より頼もしくなりました



New Doctor Interview

内科・内視鏡部 新任医師に聞く

関西医科大学くずは病院
内科(消化器内科)

細田 晃暉

Hosoda Koki

Profile

- 2020年3月 関西医科大学医学部医学科 卒業
- 2020年4月 関西医科大学附属病院(初期研修)
- 2022年4月 関西医科大学 第三内科
- 2024年4月 JCHO大和郡山病院 消化器内科
- 2025年10月 関西医科大学くずは病院 内科(消化器内科)

患者さんファーストの 診療で、消化器疾患に 苦しむ人を減らしたい

消化器内科を志した原点は、初期研修医時代に触れた内視鏡診療の奥深さでした。内視鏡は身体の中を見るための一つの手段ではありませんが、的確な治療によって患者さんの生活の質を大きく改善できる分野でもあります。一つひとつの手法に求められる繊細さと判断力に魅力を感じ、この領域で研鑽を積みみたいと考えました。私自身、まだ学ぶべきことの多い立場ではありますが、若手ならではのフットワークの軽さと柔軟性は強みだと自負しています。最適な処置だけでなく、患者さんの納得・安心があつてこそ良い医療と言える。その思いを胸に、分かりやすい説明と丁寧な対話を心がけています。

そして、そうした姿勢を支えてくれているのが当院の内科診療体制です。定期的なカンファレンスを通じて、チームで治療方針を検討できる強固な環境は当科の強み。重症例については附属病院と迅速に連携でき、地域の基幹病院としての役割を果たしています。また、浦上医師(前ページ)と運営している内視鏡部においても、可能な限りお任せすることなく、患者さんの負担を抑えた検査・治療を提供しています。

今後も患者さん第一の姿勢を大切に、些細なことでも安心して相談していただける医師でありたいと考え、地域医療を支える一員として真摯に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

増設した手術室、順調です

当院では、診療体制の強化とともに手術件数の増加に取り組んできましたが、2024年から手術室を1室増加。2室体制で運営しています。増設したのは「クラス1000」と呼ばれる清浄度の高い空調設備を備えたクリーンルームで、人工関節や脊椎など術後感染の予防が重要な手術にも対応。また、機器・道具類を見直すことでスタッフの作業負担も軽減しました。その結果手術件数が右肩上がりに増加し、入院患者数・病床稼働率の向上にも繋がっています。



2025年度より 「入院前支援」をご提供しています



病棟担当 看護師(副部長)

大潮 真梨子

Oshio Mariko

これまでの蓄積を強みに

現在は病棟看護師として入院前支援を担当しておりますが、外来での13年間の勤務経験が私の基盤です。長く通院されてきた患者さんの生活背景やご家族の状況、人柄まで踏まえた情報を病棟へ丁寧に引き継ぐことで、その方らしさを尊重したケアに繋がっています。地域に根ざす当院だからこそ築けたこれまでの信頼関係を、入院という節目においても途切れさせないことを信条に、これからも業務に励んでまいります。

チームワークで臨床力向上へ

病棟の副部長として、入院前支援の相談窓口で収集された情報を、いかに病棟でのケアに反映させるかという視点で関わっています。開始当初は診療報酬加算の取得が一つの目的でしたが、運用を重ねる中で記載内容の標準化や情報共有の質的向上が進み、患者さんとのコミュニケーションも格段に円滑になりました。自分のことを理解してもらえているという安心感は、ポジティブな入院生活にも繋がります。現在は整形外科のみですが、今後は他科へも展開し、在院日数の適正化と早期在宅復帰を通じて地域医療に貢献していきたいです。



病棟担当 看護師

田中 梨沙

Tanaka Risa

早期介入で不安を払拭

地域医療連携部の看護師として、入院前支援が円滑に機能するため体制整備を担ってきました。特に高齢の患者さんは、家族構成や生活基盤に課題を抱えるケースも少なくありません。入院前に詳細な情報を把握することで、介護保険申請などの社会的支援へ早期に介入できる体制が整いました。先生方からご紹介いただく患者さんが退院後も地域で安定した生活を送れるよう、引き続き尽力してまいります。



地域医療連携部 看護師

西澤 佳代

Nishizawa Kayo

退院後を見据えた支援を

メディカルソーシャルワーカーとして、退院後の生活を見据えた支援を担当しています。入院患者さんは治療そのものに加え、退院後の暮らしに対する不安を抱えておられるケースがよくあります。その思いを丁寧に伺い、必要な制度や社会資源をご案内しながら、具体的な生活像を一緒に描いていくことが私の役割です。些細な懸念も安心してお話しいただける環境づくりを心がけ、看護職とは異なる社会的視点から支援を重ねています。

さらなる改善を目指して

スタート時より他院の取り組みも参考にしながら当院の実情に即した運用を構築し、これまで工夫を重ねてきました。2名体制だった患者相談窓口も、現在では9名の看護師が関わっています。入院前の段階で病棟への確かな情報を共有することで、患者さんに不安や空白を感じさせない、切れ目のない支援が可能になりました。緊張した面持ちで来院された患者さんが笑顔で退院される姿に接するたび、この取り組みの意義を実感します。



外来担当 看護師

上田 恵

Ueda Megumi



Speciality Service Interview

センター長に聞く

関西医科大学くずは駅中健康・健診センター
センター長

浦上 昌也

Urakami Masaya

センターを開設して3年。基盤整備に力を注ぎながら歩みを重ねてまいりました。地域の先生方におかれましては、日頃より当センターの活動にご理解を賜りありがとうございます。当センターでは現在、人間ドックを軸とした予防医療体制を着実に確立しつつあります。予防医療の大切さを啓蒙し、質の高い医療を適正な価格で届けること。その姿勢を貫き、保健指導体制の強化や検査項目の拡充を図り、健診の質を高めてきた結果、受診者数・リピーター数ともに着実に増加しています。昨年10月には全国健康保険協会の生活習慣病予防健診実施機関として選定され、受診の間口が広がったことで、より多くの方に予防医療を

安心と納得の個別化健診とメディカル・フィットネスで 真の予防医療を追究していく

センターを開設して3年。基盤整備に力を注ぎながら歩みを重ねてまいりました。地域の先生方におかれましては、日頃より当センターの活動にご理解を賜りありがとうございます。当センターでは現在、人間ドックを軸とした予防医療体制を着実に確立しつつあります。予防医療の大切さを啓蒙し、質の高い医療を適正な価格で届けること。その姿勢を貫き、保健指導体制の強化や検査項目の拡充を図り、健診の質を高めてきた結果、受診者数・リピーター数ともに着実に増加しています。昨年10月には全国健康保険協会の生活習慣病予防健診実施機関として選定され、受診の間口が広がったことで、より多くの方に予防医療を

提供できる環境が整いました。

当センターの特長は、テラーメイド人間ドックです。家族歴や既往歴、生活習慣などを丁寧に伺い、その方のリスクに応じて検診内容を組み立てます。個々の健康リスクを層別化し必要な検査を的確に選び、過不足のない「安心と納得」を提供する人間ドック・健診を実施しています。その結果、必要と判断された精密検査は附属病院や近隣の医療機関と協力して行っています。もちろん、個人の健康リスクに応じたメディカル・フィットネスも当センターで実施しています。

最新の話題として、昨年よりCraif株式会社のリキッドバイオプシー検査の提供を開始しました。1件約5万円と高額ではありますが、尿検査で約10種類のがんの罹患リスクを高精度に判定する先進的検査であり、特に膵がんの早期発見に期待が寄せられる検査として注目を集めています。当センターでは検診のオプションメニューとして選択できるほか、同検査を個人的に受けられ所見となった方に対しても、説明や精密検査を実施するサービスを行っています。

またメディカルフィットネス部門では、がんサポートや認知症予防を柱に、各種の健康リスクを抱えた方々の健康寿命の向上に貢献してきました。こちらもご利用者様がご増える中、最近では大学の上部消化管外科リハビリテーション学部と共同で臨床研究を開始します。

Profile

- 1983年3月 関西医科大学 卒業
- 1983年5月 関西医科大学付属病院 内科 研修医
- 1985年6月 財団法人田附興風会北野病院 内科 医員
- 1990年3月 関西医科大学大学院(第2内科学)単位修得
- 1990年8月 国保古座川病院 内科 医長
- 1991年11月 関西医科大学 第2内科学講座 助手
- 1996年4月 財団医療法人 OMMメディカルセンター 入職
- 2002年4月 財団医療法人 OMMメディカルセンター 総合健診センター長(副所長)
- 2005年4月 財団医療法人 OMMメディカルセンター所長(常務理事)
- 2006年4月 関西医科大学 臨床教授
- 2012年4月 OMMメディカルセンターと関西医科大学の経営統合により 関西医科大学 天満橋総合クリニック 院長
- 2022年4月 学校法人関西医科大学 理事長特命教授(任期4年)
- 2022年11月 くずは駅中健康・健診センター センター長



今後も提供サービスのさらなるブラッシュアップに努め、関西医科大学が目指す「予防から治療」さらにはその後の生活支援まで見据えたシームレスな連携体制の構築に寄与してまいります。



Speciality Service Interview

院長に聞く

関西医科大学天満橋総合クリニック
院長

大宮 美香

Omiya Mika

Profile

- 1989年3月 関西医科大学 医学部 卒業
- 1989年6月 関西医科大学 麻酔科学講座 入局
- 1992年11月 関西医科大学附属香里病院 第1内科 入局
- 1996年5月 関西医科大学附属香里病院 (現・関西医科大学香里病院) 第1内科 助手
- 2006年1月 関西医科大学 内科学第三講座 助手
- 2010年6月 関西医科大学香里病院 内科 診療講師
- 2021年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック 内科
- 2022年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック 院長

基本の健診コースをより骨太に、オプションメニューも増強しました

健診は今や単なる疾病の早期発見にとどまらず、健康寿命の延伸やウェルビーイング向上への貢献が期待される時代です。当クリニックでは市場ニーズに応え、これまで以上に選んでいただける健診施設となるべく、メニューの見直しと新たなオプション検査の導入が決定しましたのでご案内いたします。

基本コースの 検査項目を増強

わが国の予防医療において、健康診断の受診率やその後の再検査の低さは長年の課題となっています。当クリニックでも「せっかく検診を受けていたのだから、今疾患があるかなしかだけではなく、ぜひそのデータを今後の健康リスクの管理・抑制に役立てていただきたい」。そう考え、受診者の方々ご自身の健康状態をより切実に捉え、具体的な行動変容へと繋げていただけるよう、2025年度より基本ドックコースに新たに2つの指標を導入しました。

一つ目は、血液検査データから肝臓の線維化リスクを評価する「FIB-4インデックス」です。従来のGOTやGPTといった指標では、特に飲酒習慣のある方や脂肪肝を指摘され続ける方において「いつもの数値だから」と見過ごされ、再検査に至らないケースが散見されてきました。しかし肝臓の「硬さ」を具体的な数値で可視化することで、現状の深刻さ、あるいは維持すべき状態をより分かりやすく提示することが可能になります。

二つ目は、尿検査による「日塩分摂取量」の推定です。高血圧や腎臓疾患の方はもちろん、全ての人のため塩分摂取量の管理は健康維持に重要ですが、日常的な摂取量を把握することはなかなか困難です。それをグラム単位で見える化することにより、受診者の方がより自覚的になり、生活習慣の見直しに役立てていただくことができると考えています。

先進的な オプションメニューを追加

オプション検査メニューでは、世間のニーズに鑑み採血による膵がんのスクリーニング検査「アポリipoprotein A2アインフォーム検査」を新たに導入しました。膵がんは依然として予後不良ながんであり、男性も女性も5年生存率は約10%。しかも早期発見が極めて困難な疾患です。しかし近年登場した当検査は、血液中のタンパク質バランスを測定することで、従来の腫瘍マーカーでは捉えきれなかった早期がんも発見できる可能性があると注目を集めています。例えばご家族に膵臓がんの既往がある方や、糖尿病をお持ちの方など、特にリスクを懸念される方により精度の高い選択肢としてご案内しています。

また、今年度中にはさらなるメニューの拡充を予定しています。疾患リスクを統計的に分析する遺伝子検査「Genovision Dock」をはじめ、関心が高まりつつある、腸内フローラ検査、尿中RNAからがんリスクを判定する「Missignna」など、さらに高度な検査体制を整えるべく準備中です。今後も最新テクノロジーを駆使した新たな選択肢を随時検討してまいりますので、どうぞご注目ください。



【遺伝子検査結果レポート例】

当クリニックが健診に携わって半世紀。受診者のニーズは時代とともに変化してきました。その変化に真摯に向き合い、質の向上を積み重ねていくことが私たちの使命だと考えております。疾患リスクや体質を多角的に評価し、将来を見据えた予防戦略を提示できるよう、これからも関西医科大学系列としての環境を活かしながら改善と挑戦を重ねてまいります。